

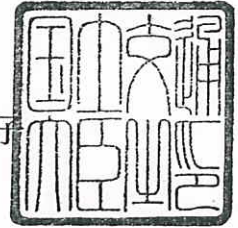


認 定 書

国住指第2210号
平成14年5月17日

社団法人石膏ボード工業会
会長 須藤永一郎 様

国土交通大臣 林 寛子



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第2条第七号の二並びに同法施行令第107条の2第一号、第二号及び第三号(外壁(耐力壁):各45分間)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

QF045BE-9228

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

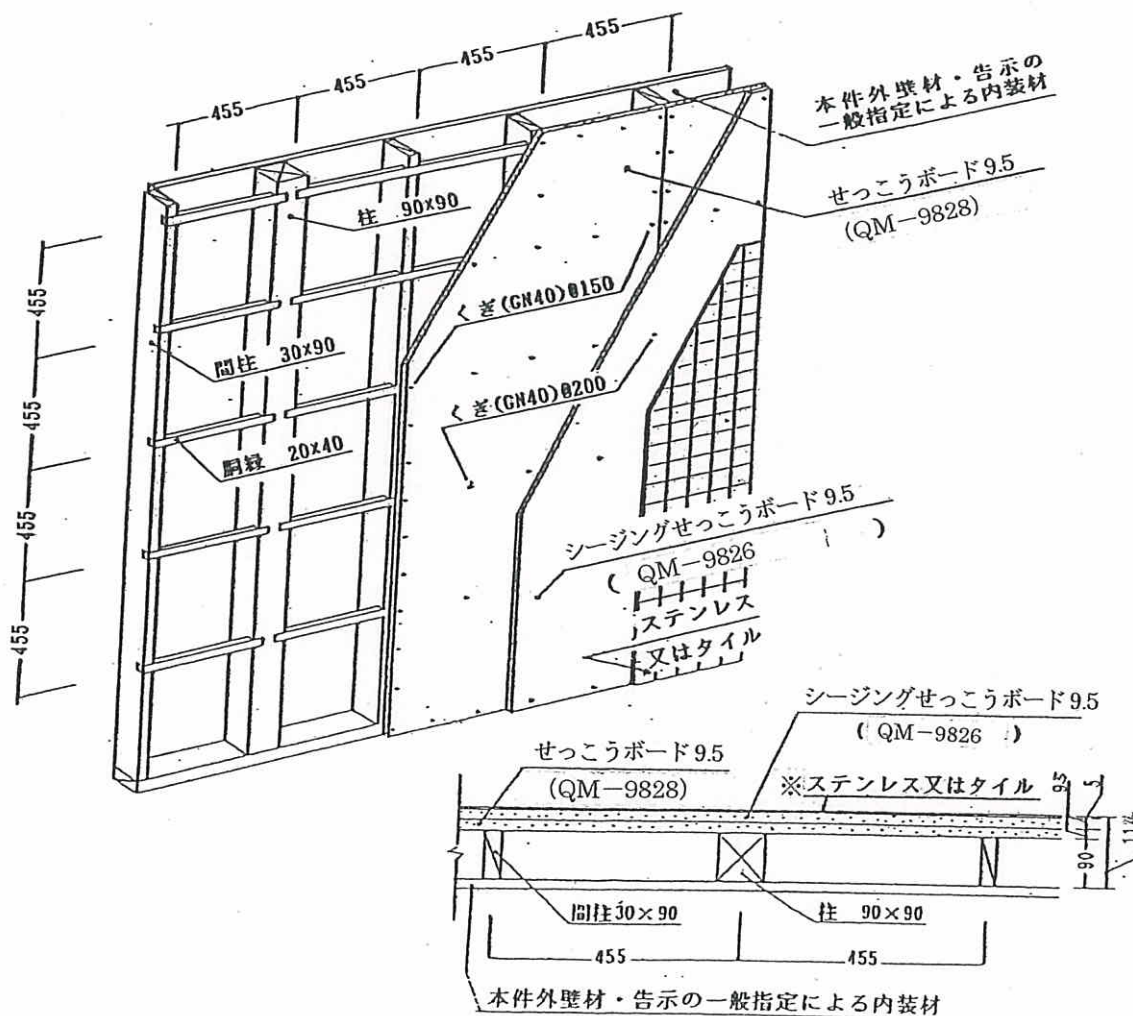
ステンレス板又はタイル張シーリングせっこうボード・せっこうボード張
/木造外壁

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

認定番号	QF045BE-9228	認定年月日：平成14年5月17日
品目名	ステンレス板又はタイル張シージング せっこうボード・せっこうボード 張/木造外壁	申請者名：社団法人 石膏ボード工業会 東京都港区西新橋2-13-10 (吉野石膏虎ノ門ビル) TEL(03)3591-6774

- 1. 用途 外壁
- 2. 試験機関名 建設省建築研究所
- 3. 構造説明図 (単位 mm)

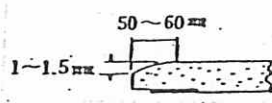
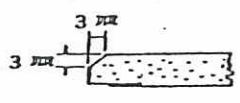
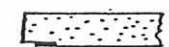


4. 材料等説明

4-1 主構成材料

(1) 外装材

1) せっこうボード及びシージングせっこうボード

項目 \ 種類	せっこうボード	せっこうボード	シージングせっこうボード
国土交通大臣認定番号	QM-9823	QM-9828	QM-9826
日本工業規格	JIS A 6901	JIS A 6901	JIS A 6901
厚さ (mm)	9.5	9.5	9.5
寸法 (mm)	910×1820 910×2730		910×2420 1210×2420
	(許容差: 幅 0、 -3 長さ +3、 0)		
側面形状	①テーパエッジ 	②ベベルエッジ 	③スクウェアエッジ 
比重	0.7~0.8	0.65 以上	0.8~0.9
含水率 (%)	3.0 以下	3.0 以下	3.0 以下
曲げ強さ (kg f)	40 以上(長さ方向)	40 以上(長さ方向)	40 以上(長さ方向)
組成 (%)			
せっこう	99.0 以上	95.0 以上	98.0 以上
混和材	1.0 以下	5.0 以下	2.0 以下
添加剤			
ボード原紙の厚さ	0.3~0.6 mm		

2) タイル

JIS A 5209 (陶磁器質タイル) に規定する外装タイル及びユニットタイルとする。

3) ステンレス

国土交通大臣認定NM-8316~8326「外装ステンレス鋼板」該当品とし、厚さは 0.4 mm以上、寸法及び形状は JIS G 3320 (塗装ステンレス鋼板) による。

(2) 内装材

本件外装材・告示の一般指定による間仕切壁の内装材

1) 厚さが 15 mm以上のせっこうボード。

2) 厚さが 12 mm以上のせっこうボードの上に厚さが 9 mm以上のせっこうボード又は難燃合板を張ったもの。

3) 厚さが 9 mm以上のせっこうボード又は難燃合板の上に厚さが 12 mm以上のせっこうボードを張った

もの。

4) 厚さが7mm以上のせっこうラスボードの上に厚さ8mm以上せっこうプラスターを塗ったもの。

(3) 下地材

1) 在来軸組工法の場合は、製材の日本農林規格に定める品質を有するもので、断面寸法は次のものを標準とする。

- | | |
|-----------|----------|
| ① 柱 (mm) | 90×90 以上 |
| ② 間柱 (mm) | 30×90 以上 |
| ③ 胴縁 (mm) | 20×40 以上 |

2) 枠組壁工法の場合は、枠組壁工法構造用製材および集成材の日本農林規格に定める品質を有するもので、壁のたて枠、上枠、頭つなぎ、下枠などの断面寸法は、寸法型式 204 (38×89 mm)以上のものとする。

4-2 副構成材料

(1) せっこうボード用くぎおよびせっこうボード用スクリュー

せっこうボードを取付けるくぎおよびスクリューは次による。

1) せっこうボード用くぎ

JIS A 5508 (くぎ) の規格品とし、長さおよび太さは次のものを標準とする。

- | | | |
|--------|-------------|-----------|
| ① 下張り用 | 長さ 32 mm以上、 | 太さ 2.3 mm |
| ② 上張り用 | 長さ 38 mm以上、 | 太さ 2.3 mm |

2) せっこうボード用スクリュー

JIS B 1125 (ドリリングタッピンねじ) に規定するせっこうボード用スクリューで、長さおよび太さは次のものを標準とする。

- | | | |
|--------|-------------|---------------|
| ① 下張り用 | 長さ 25 mm以上、 | 太さ 3.0~4.0 mm |
| ② 上張り用 | 長さ 28 mm以上、 | 太さ 3.5~4.0 mm |

(2) せっこうボード用目地処理材

・ジョイントコンパウンド

JIS A 6914 (せっこうボード用目地処理材) の規格品とする。

・ジョイントテープ

1) 紙製テープ

- | | |
|-----------|---|
| ① 寸法 (mm) | 厚さ 0.2~0.3、幅 45 (±1) 以上、55 (±1) 以下。 |
| ② 形状 | ロール状で、テープの長さ方向中央には折り目、両側部にテープを付けてある。また、小孔を設けたものもある。 |
| ③ 引張強さ | 8 kg f (長さ方向) |

2) グラスファイバーテープ (裏面に接着剤塗布)

- | | |
|-----------|-------------------------|
| ① 寸法 (mm) | 厚さ 0.152、幅 50 |
| ② 形状 | メッシュ (網目 2.5 mm×2.5 mm) |
| ③ 引張強さ | 13.4 kg f (長さ方向) |

(3) タイル張り用接着剤

JIS A 5548 (陶磁器質タイル用接着剤) に規定するエポキシ樹脂系反応硬化形又は合成樹脂系エマルジョン系のものとする。

(4) タイル用目地材

白色セメントに骨材、防カビ材、保水剤等を添加した既調合品とする。

(5) ステンレス鋼板用くぎ

ステンレス製くぎとし、長さ 45 mm 以上、太さ 2.45 mm 以上のものとする。

5. 標準仕様(施工仕様)

(1) 下地組

<在来軸組工法>

間柱の間隔は約 455 mm とする。胴縁は約 455 mm 間隔とし、柱および間柱にかき込み平面とし、くぎで打ち留める。

<枠組壁工法>

建設省告示第 56 号 (昭和 57 年 1 月 18 日制定) および第 1920 号 (昭和 62 年 11 月 13 日一部改正) による。

(2) セッコウボード張り

- 1) 下張りセッコウボードをくぎ留めした後、たて目地、よこ目地ともに目地が重ならないようにシージングセッコウボードをくぎで留める。セッコウボードは突き付け張りとし、目すきのないよう張る。
- 2) セッコウボードのくぎ留め間隔は、下張りセッコウボードでは外周部 150 mm 以内、中間部は 200 mm 以内とし、上張りシージングセッコウボードは外周部および中間部とも 200 mm 以内とする。

(3) セッコウボードの目地処理

下張りのセッコウボードは目地処理を行わず、上張りとなるシージングセッコウボードの目地処理は次のとおりとする。

1) テーパーエッジの場合

- ① シージングセッコウボードの継目部分にジョイントコンパウンドをむらなく塗り付け、ただちにジョイントテープを張り、ヘラで十分圧着する。
- ② ジョイントコンパウンドが乾燥した後、ジョイントテープが覆われるように薄くジョイントコンパウンドを塗り広げたいらにする。乾燥後、サンドペーパーをむらや凹凸をならす程度に軽くかけたいらにする。
- ③ くぎ頭のへこみ部分をジョイントコンパウンドで下塗りし、乾燥後、さらに上塗りをしてたいらにする。

2) ベベルエッジの場合

- ① 継目 (V 溝) にジョイントコンパウンドを埋め込み、たいらにする。
- ② ジョイントコンパウンドが乾燥した後、塗り幅を少し広げて上塗りをし、たいらに仕上げる。
- ③ ジョイントテープを用いる場合は、(1) テーパーボードの目地処理に準じて行う。

3) スクエアエッジの場合

- ① 継目部分をジョイントコンパウンドで下塗りし、すき間を埋める。
- ② 上塗りは、できるだけ薄く塗り広げてたいらにする。
- ③ ジョイントテープを用いて補強する場合は、テーパーボードの目地処理に準じて行う。

(4) タイル又はステンレス張り

1) タイル張り

- ① タイルの割付けをし、張りはじめの位置に水平、垂直の基準線の墨出しをする。
- ② 接着剤の塗布量は、 1.7 kg/m^2 を標準とする。
- ③ タイルは、1枚張りの場合は、手でもみ込むようにして強く押さえ付け、タイル裏面へ接着剤を十分なじませて張る。ユニットタイル張りの場合は、押え板を用いて押し付け、十分密着させる。タイルの張り付け作業中に、接着剤が目地部からはみ出したり、タイル面に付着したときは、接着剤が硬化しないうちに拭取る。
- ④ 目地詰めは、接着剤の硬化を確認し、目地ごて又は目地棒で目地押えをし、内部にすき間が生じないように目地底まで十分に充填する。

2) ステンレス鋼板張り

- ① ステンレス鋼板の張り付けはくぎ又は接着剤を使用し、接着剤の塗布量は 300g/m^2 を基準とする。
- ② ステンレス鋼板の継目は、ハゼ継ぎとする。

6. 付帯条件

なし